



## エーアイテック (松本市)

### 自社製品の付加価値向上を通じ需要を開拓

FA機器の開発・設計・製造を手がける(株)エーアイテックは、顧客ニーズに応じて自社製品の付加価値向上を図る一方、東南アジアへの進出も視野に新たな需要を開拓しようとしている。

#### 受注減少期に3D化を実現

設立以来、何度か直面した不況期をチャンスにとらえ、成長への糧としてきたエーアイテック。リーマン・ショック後、主力得意先からの受注が急激に減少した際は、業務の3D化を目指し、社内の教育・訓練に力を入れた。

「不況で危機感を共有できれば、新しいことにチャレンジするきっかけとなり、そのための時間も確保できる」と話す大林頼彦社長は、この時期に3D化を実現したことが、開発・設計の精度向上はもちろん、顧客に対しわかりやすい提案を行う、顧客の要望をスムーズに取り入れるなどといった業務の効率化にもつながったと振り返る。

そうした効果もあって、一時減少していた受注は回復基調で推移。今期(2013年6月期)の年売上高も前期から大幅に増加する見通しとなっている。

#### 熱に関する装置や標準化しづらい装置

冷凍機、異形部品挿入機、低高温検査機、塗布機などが主力製品。冷凍機や低高温検査機など熱に関する装置を幅広く扱うほか、一枚のプリント基板に大きさや形状が全く異なる部品を挿入する異形部品挿入機など標準化しづらい装置の分野でノウハウを蓄積してきたため、他社との競合がある程度避けられるという強みも発

揮している。

近年は、顧客ニーズに応じる形で自社製品に改良を加えるケースが増加。車載用の電子機器やICの検査を-40℃から125℃の範囲で行う低高温検査機では、決まった温度のもとで検査するだけでなく、温度を変化させながら検査することができる装置も開発している。

安全性や省コストはもちろん、最近では省エネやエコを重視したニーズが大きくなってきているという。

#### 東南アジアへの進出を計画

受注回復の背景には、ここ数年メーカー各社の海外生産シフトが進み、現地で新たな設備投資需要が高まってきたことも関係している。一昨年のタイにおける洪水や昨年の日中関係悪化など海外展開にはリスクもあるが、市場としての魅力は相変わらず大きい。

海外シフトは今後も拡大する見通しとなっているが、エーアイテックでは日系企業に対するメンテナンスをはじめ顧客サービスを充実させるため、自社として海外に進出することも計画。大林社長は、「コスト削減が目的ではないが、世界的な流れに沿って東南アジアに拠点を構え、新たな需要を開拓することが必要だと判断した」と口にする。

今後は、開発部を独立させ研究開発への取り組みを一層強化する一方、管理面のデータベース化を進め、企業としての総合力を向上させたいとの意向を示す。また、3月には本社及び工場の屋根に太陽光発電パネル(合計70キロワット)を設置し、売電事業に参入する運びとなっている。



エーアイテックの低高温検査装置

#### 【株式会社エーアイテック】

企業コード：300095586 資本金4000万円、1986年9月設立、松本市和田3967-74、代表取締役社長大林頼彦氏、従業員27名。2012年6月期の年売上高は約6億7400万円。